

研究機関名：東北大学

1.受付番号	2019-011
2.研究課題名	詩を味わう喜びが幸せな加齢に果たす役割の解明と実践
3.研究期間	令和2年3月（倫理審査委員会承認後）～ 令和5年3月31日
4.研究の概要	<p><b>意義・目的</b></p> <p>幸せな老年期を送るためには、知恵（wisdom）が不可欠である。知恵は、豊かな教養に支えられた知性と感情がよく調和することで培われるが、そうした調和の状態に達するために、ことばの芸術である詩がどのような役割を果たすだろうか。本課題は、俳句と川柳に注目し、超高齢社会を迎えた日本でますます深刻になりつつある高齢者の社会的孤立の解消に、ことばの芸術を介した交流を役立てるための根拠を提供し、その実践のあり方を示すことを目的とする。</p> <p>まず、行動実験と瞳孔計測実験で俳句と川柳を享受している間の生体反応と加齢変化を検討する。歌、詩、音楽などを享受して感動するのにともない瞳孔径が拡大すること（Weiss, et al., 2016, JEP: HPP）に鑑みて、俳句や川柳に感激することにもない瞳孔径が拡大すると予測する。また、そうした瞳孔の変動に反映する文芸に対する感受性と、知能、感情、認知スタイル等の個人特性との相関構造を明らかにする。研究内容は、公開講座、俳句大会等を通して多くの人々と共有する。</p> <p>本課題は、俳句・川柳を題材として、詩を享受している間の瞳孔計測を行う。あご台に顔を載せて一定の姿勢でコンピュータ画面を凝視し、ヘッドフォンで詩を聴いている間の瞳孔径の変化を検討する。課題試行中は10分ごとに数分の小休止、20分ごとに10分の休憩をはさみながら、約50分程度座位の姿勢を維持するよう求める。詩の理解に及ぼす個人差の影響を測定するため、認知機能や性格特性の検査を行う。</p> <p><b>方法</b></p> <p>参加者は、事前に提示される俳句を読み上げて学習し、瞳孔計測中に俳句や川柳を味わって評定する。その評定値と瞳孔径の変動の相関を分析する。瞳孔計測にはEyelink1000 PLUS (SR Research, Canada)を用いる。参加者の個人特性を把握するために、標準化された言語・認知・性格特性に関わる検査を実施する。謝金は、学外の高齢参加者に対しては¥4,000（交通費込み）、学内の若年参加者に対しては¥3,000を支払う。</p> <p><b>問い合わせ・苦情等の窓口</b></p> <p>東北大学大学院文学研究科言語学研究室（022-795-5983） 東北大学川内南地区「人を対象とする医学系研究」 倫理審査委員会事務局（022-795-6103）</p>